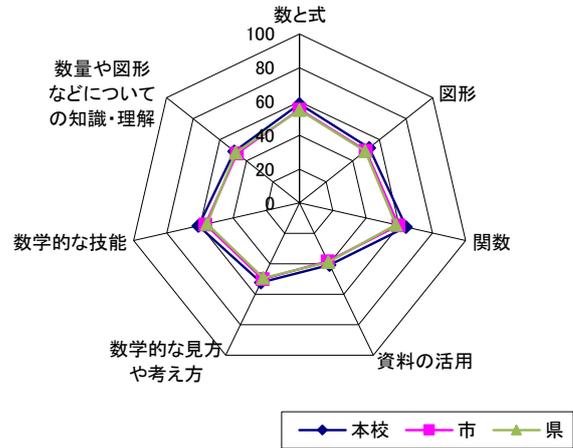


宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	58.6	55.4	55.0
	図形	52.3	49.8	49.2
	関数	64.2	59.6	58.0
	資料の活用	40.7	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え	52.2	50.0	49.3
	数学的な技能	60.9	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	49.0	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○正答率は県・市を3%以上上回っており、特に設問別では「一次方程式を解く問題」が県・市を15%ほど上回るなど、数学的な技能の定着が十分になされているといえる。</p> <p>●その反面、「自然数を正しく選ぶ」設問では、県と比較して5%下回っており、数量についての知識・理解が不十分であると推測される。</p>	<p>・数学的な技能が高いことは、テストの得点アップには欠かせないスキルではあるが、数学的な用語や、式があらわす意味など、数学的な知識・理解を軽視する生徒が多く、結果としてケアレスミスを繰り返してしまう。授業中の発問を気を付けたり、小テストや領域ごとの語句の復習を意図的に扱ったりしながら、根気強く指導を続けていきたい。</p>
図形	<p>○全体的な正答率は、県・市をおよそ2.5~3%上回っており、設問別にみても、基礎的な内容は身に付いているようである。</p> <p>●校内の学力層別に見てみると、内容の定着に上位層と下位層で著しい開きがある領域であることがわかる。図形の内容がほとんど身に付かないままの生徒が学年の1~2割ほどいることが課題である。</p>	<p>・学力下位層の生徒が、図形の学習に対して意欲を持てるような教材研究を続けるとともに、必要に応じて具体物の操作や、じっくりと腰を据えて考える時間の確保、また、自分の考えを発表する場を設けるなどして、全体的なレベルアップを図っていきたい。</p>
関数	<p>○正答率は県・市を5%ほど上回っており、特に設問別では「反比例の関係を表す式」設問が県・市を10%ほど上回るなど、数学的な技能の定着がなされているといえる。</p> <p>●その反面、「時間の差を求める」設問では、県・市と比較して上回っているが、記述式の設問は、正答率が低く課題が残る。</p>	<p>・この領域は、知識・技能は身につけているが、数学的な技能のさらなる向上を目指しつつ、関数に関する用語の確認や、座標の復習など、知識の定着を目指して指導していく。また、グラフから読み取り計算する問題に慣れていない傾向があるので、意識的にグラフを読み取り考える問題を練習させるようにする。</p>
資料の活用	<p>○正答率は県・市を2%上回っている。設問別では「中央値が含まれる階級」の正答率が市と比べて5%ほど上回っている。</p> <p>●新しい用語の理解が不十分であるため、「相対度数の求め方」など県・市を下回っている。「理由を説明する」記述式の設問は、正答率が18.2%と低く、自らの考えを書いたり説明したりといった設問に課題が残る。</p>	<p>・正答率は県・市を上回っているものの、全体の正答率は40%と課題の残る領域である。また、自主学习でもおろそかになってしまう領域でもあるので、2年生で再度復習できるように自主学习用のプリントを用意するなど、復習のできる環境を作っていければと考える。</p>